

第2学年 国語科学習指導案

対 象 第2学年3組 24名

会 場 第2学年3組教室

授 業 者 岩 本 圭 一 朗

1 単元名 みんなで話をつなげよう 「そうだんにのってください」

2 単元の目標

生活科の「町たんけん」の学習と関連させ、自分が担当するお店でインタビューする質問内容を相談することができ、当日の質問内容を決めることができる。友達からの相談に積極的に返答したり、根拠をもって質問内容を考えたりして、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・共通、相違、事柄の順序など情報と情報の関係について理解している。	・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝えるために必要な事柄を選んでいる。 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。	・積極的に相手の発言を受けてつなぎ、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
活動に即した具体的な評価規準	①話し合いの行い方を理解している。 ②話し合いを円滑に進めるうえでのポイントを理解している。	①身近なことや経験したことなどから話題を決めている。 ②相手に伝わるように、自分の考えを基に順序に気を付けて話している。 ③話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないようにして集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 ④互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。	①話し手の発言を受けてつなぎ、積極的に話し合おうとしている。

4 単元設定の理由

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説国語科編（平成 29 年告示）の以下の内容を受けて設定した。

- (1) 話すこと・聞くことに関するつぎの事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄の順序を考えること。
 - イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。
 - ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。
 - エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。
 - オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。
- (2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
- ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。
 - イ 尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。

これを踏まえて本単元では、相談したいことを話題に、話し合いの基盤となる「互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて、話をつなぐこと」の力を付ける単元である。

グループ内で、各自の考えを広げていく拡散的な話し合いとして「友達の相談事に考えを出し合う」という話題設定である。相手の困りごとを受け止めたうえで、関連した発言をすることで話をつないでいくという流れを理解することが求められる。相手の発言を受けて話をつなぐためには、質問する、復唱して確かめる、共感の気持ちを表す、感想を言うなどが考えられる。相手の発言があつての自分の考えであることをしっかり押さえたい。内容によっては、考えが出にくいものもある。ここでは、答えを出すというより、受け止めてつないでいくことが大切であることに気付かせたい。話し合いは、本人が考えを生み出すきっかけの活動でもある。話し合う活動を通して、話がつながることの楽しさ、話し合つてよかったという実感にこそ価値がある。

聞き手や話し手が瞬時に入れ替わりながら、話題について考えを出し合つていくというのが「話し合い活動」である。ここでは、話し合いの流れを学習する。学習の進め方は、①話題を決める、②話し合いの仕方を確かめる、③グループで話し合う、④話し合つてよかったことを伝え合うであり、四つの活動について、確認しながら進めていく。特にグループで相談する人になって話し合う活動が「話し合いの力」を育むうえで最も重要となる活動である。

「考えを言う時、考えを聞くとき」では、進んで話す、理由を言う、うなずきながら聞くなど、「話すこと・聞くこと」の基本を押さえて活動させたい。「友達と考えを出し合うとき」では、言ったことを確かめたり、話を聞いて感じたこと（同意見、共感）などを伝えたり、質問したりすることの大切さに気付かせたい。

「誰もが参加できる話題」「子どもの力でも解決できる話題」「話してよかったと思える話題」の設定を心がける。身近で友達の助言が欲しい話題であれば、話し合いの必然性と価値を実感させる

ことができる。一方で、相談したい内容が、個人のトラブルや解決困難なものにならないよう、本単元では、「話し合いの基礎」の学びにふさわしい話題を設定するように児童に投げかけたい。

同時期に生活科の「町たんけん」でお店の方に聞きたいことを考える学習がある。教科横断的な視点からも児童が必要感をもち、主体的になる話題となるようにしていきたい。

(2) 児童観

国語科での対話の時間としての学習は初めてとなる。しかしながら、対話的な学びは各教科の学習で行ってきている。それぞれの教科で、自分の考えを友達に伝えること、また、友達の発表を聞いて自分の考えと比較したり、共通点を探したりしながら聞くということを行っている。特に、算数科の学習では、自分の考えと比較しやすいため、グループでの話し合いをよく行っている。また、国語科の学習においても、説明文のキーワードの読み取りにおいて、根拠・理由を明らかにして説明する学習を行っている。

しかしながら、すべての児童が根拠をもって説明できるわけではない。机間指導をして個別に助言することもあるが、十分とは言えない。したがって、子どもたちと相談しながら話型を作り、示した上でどの子もできるようにしている。

今回の学習では、生活科との関連を図り、町探検に出かけた時のお店の方への質問をするという新しい形となる。グループで話し合うことには親しんでいるが、相談にのるという形はこれまでの学習では行ってきていない。何を伝えていいのか、どのように相談の回答をすればいいのか迷ってしまうことが考えられる。そこで、児童が主体的に活動ができるような伝え方のパターンを提示することで安心して学習できるようにしていきたい。

(3) 教材観

この教材のねらいは自分の相談したいこと、つまりは悩み事を聞いてもらい、周囲の人間から助言をもらうことで、自己の考えを固めることにある。テーマが多岐にわたる場合は、児童の経験や体験に即していないと十分な助言がないと想像できる。そこで、まずは共通の話題での話し合いにすることが望まれる。このころは生活科の町探検の計画をしている時期でもあるので、児童の学習上、共通する話題として取り上げられることで話し合いが活発になるのではないかと考える。

また、グループの友達からの助言から自分の考えを固めていくため、助言のどの部分が決め手となったのかを明確にもつことができる。この後の手だてにもつながっていくが、対話から自己の選択があり、自己の考えを表明するような流れが授業の中で構成できるようにすることで、児童は納得し、自分の考えに対して自信をもつようになると考える。

5 単元の指導計画と評価計画（全5時間）※評価の赤字はその時間の重点

時	目標（●）と主な活動（○）	評価			
		知技	思判表	態度	
1	<p>●学習の見通しをもち、関心をもって相談事の話し合いに取り組もうとすることができる。</p> <p>○教材名を読んで、学ぶことを想像する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">友だちのそうだんごとを聞いて、考えを出し合おう。</p> <p>○単元のめあてを設定する。</p> <p>○教材を読み、大体の学習の流れを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったことがあった時にどのように解決しているかを思い出させる。 ・必ず解決させることが重要ではなく、話し合っ解決を図ろうとすることが重要になることを理解させておく。 ・学習用語「話題」について、P164を参照させて確認する。 <p>○相談したい話題について、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッピングなどで考えを広げることができるようにする。 <p>本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>			①	<p>評価規準[方法]</p> <p>〈態度〉話し手の発言を受けてつなぎ、積極的に話し合おうとしている。①〔観察〕</p>
2 ・ 3	<p>●相談するにあたって、ふさわしい話題を決めることができる。</p> <p>○本時のめあてを確かめる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">考えを出し合うために、そうだんするわだいをきめよう。</p> <p>○どのような話題が相談にふさわしいか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが考えて話すことができるような話題がよいことを伝える。 <p>○考えを出し合うための、相談する話題を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと話し合うことができる時間を確保する。 ・自分の決めた話題を短冊に書いて、黒板に掲示する。 <p>○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>			① ②	<p>〈思判表〉身近なことや経験したことなどから話題を決めている。①〔発表・観察〕</p>
4 ・ 5	<p>●話をつなげるために、話し合いの仕方を理解することができる。</p> <p>○本時のめあてを確かめる。</p>	① ②			<p>〈思判表〉話し合いの行い方を知り、情報と情報の関係について</p>

	<p>話し合いのしかたをたしかめよう。</p> <p>○話し合いの仕方を確かめる。</p> <p>○話し合いの様子を音声で確かめる。</p> <p>○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ</p>			<p>て理解している。[発表・観察]</p> <p>① 話し合いを円滑に進めるうえでのポイントを理解している。[観察]</p> <p>②</p>
6 本 時	<p>●相談に関心をもち、自分の考えを話すことで話をつなげることができる。</p> <p>○本時のめあてを確かめる。</p> <p>話し合って、考えを出し合おう。</p> <p>○話し合いを行い、考えを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ相談内容グループ(4人)で行い、話し合いの仕方を守るように呼び掛ける。 ・話し合いをグループ内の1番の席に座った友達から順に話し合いを行う。 ・1番の友達が相談することを終わったら、相談にのってくれた友達に対して、どんなところがよかったか、うれしかったかを伝える。 <p>○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>		<p>② ③ ④</p> <p>①</p>	<p>〈思判表〉話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないようにして集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。</p> <p>③[観察・振り返り]</p> <p>〈態度〉互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなごうとしている。④[観察・振り返り]</p>
7	<p>●相談に関心をもち、自分の考えを話すことで話をつなげることができる。</p> <p>○本時のめあてを確かめる。</p> <p>話し合って、考えを出し合おう。</p> <p>○話し合いを行い、考えを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる内容グループ【生活班】(4人)で行い、話し合いの仕方を守るように呼び掛ける。 ・話し合いの内容は生活科のインタビュー活動の質問に限るようにする。 ・話し合いをグループ内の1番の席に座った友達から順に話し合いを行う。 ・1番の友達が相談することを終わったら、相談にのってくれた友達に対して、どんなところがよかったか、うれしかったかを伝える。 <p>○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>		<p>② ③ ④</p> <p>①</p>	<p>〈思判表〉話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないようにして集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。</p> <p>③[観察・振り返り]</p> <p>〈態度〉互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなごうとしている。④[観察・振り返り]</p>

8	<p>●話し合ってよかったことやできるようになってよかったことを振り返って、これからの学習に活かそうとすることができる。</p> <p>○本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>話し合いでできるようになったことや分かったことを考えよう。</p> </div> <p>○学習を通して、できるようになったことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできたかどうかを判断させ、できるようになったことを振り返ってワークシートに書き出させる。 ・実際の話し合う活動で見つけたよさを教師が紹介し、具体的な振り返りの観点を想像しやすくさせる。 ・交流タイムのような時間を設定し、友達同士で自由に話し合うことのできる時間を確保する。 <p>○学習を振り返り、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」や大切を活用し、できるようになったことを全体で確認する。 ・全体に発表することで、できるようになったことを互いに認め合うことができるようにする。 	②		<p>〈知識・技能〉話し合いを円滑に進めるうえでのポイントを理解している。② 〔ワークシート〕</p>
---	--	---	--	---

7 研究主題との関連

本研究の「働かせる5つの力」及び「子どもに示す4つの力」の関係は以下の通りである。

5つの力	4つの力
自己認知力	自分の考えをもつ力
自己決定力	
自己表明力	自分を表現する力
対話力	人を大切にする力
共創力	チャレンジする力

この授業で児童が働かせる力・・・対話力

友達の相談に対して積極的に考え、根拠をもって相談の内容の答えとなる自己の考えを述べることができる。

前時までの学習で、話し合いの仕方を学んでいる。今までの学習では、自分の考えを相手に伝えるということが多いが、今回はグループの友達に投げかけるところから話し合いがスタートする。相談を受け止める側は、相談した友達がどんなことを言ってもらいたいのかを理解し、根拠をもって話をしなければならない。また、複数で話し合いをするため周囲の友達が伝えている点が自分の話している内容と似ているか、異なる点があるのかも考えていく必要がある。

学級経営分科会における手だて

(学級経営シート)

児童が安心して話すことができる土壌を造っていくことが対話を行う上で最も大切だと考える。1学期の頃から、学級の課題(大・小問わず)があった時には、学級のみんなと話を行ってきた。みんなが気持ちよく生活するために「ちくちく言葉」をなくし、かわりに「ふわふわ言葉」を使って声を掛けていくことであったり、「面倒くさい」「やりたくない」「できない」などの「～ない」言葉を意識的に使用しないことであったりと言葉と心との関係を意識して生活をしてきている。

また、学級の友達との関わりを増やしていくために意図的に席の配置を変え、様々な友達と話をしたり、学習したりするようにしている。

今回の学習では、グループの友達との関係を考えた班編成を行うことはできないため、学級風土を基盤とするところが大きいですが、半年間で学級として大切にしてきた「言葉と心」を意識させて学習する。

学習分科会における手だて

(ア) 課題探究(児童がやりたい課題の設定)

今回の学習では、話し合いの話題が全ての児童にとって親しみやすいものでなければならないと考える。経験・体験のない話では、相談された側が話をつないで話すという目的に達することができない。したがって、児童が話をしやすい共通性のある話題を複数取り上げ、そのグループで相談にのる活動にする。

カリキュラムマネジメントの関連で生活科の町探検の学習の質問等は、全ての児童が行いやすい

と思う。一度経験した話し合いをもとにして、生活班の中で話し合いを改めて行うようにし、学んで理解したことを身に付けるようにしていきたい。

(イ) 課題探究 (対話を通して考えを深める時間)

児童が安心して学習に取り組むためには、話し合いのイメージをもつことと捉える。実際に話し合っている様子をつかむことができるように音声または映像による話し合いを通じて理解を深めさせる。また、話し合いから発見したことを全体でまとめることで、イメージを頭の中に残すことにつながられると考える。安心感のあるところでは、主体的な学びにつながっていくことをねらう。

(ウ) 課題探究 (話し合いのポイント)

(イ) で見つけた話し合いのポイントを掲示物とすることで円滑な話し合いを行いたい。話し合いを進めていくことで、対話力を働かせ、さらに高められると考えられる。対話する際は、話を聞くことがとても重要である。相手の意図していることをつかむために、分からなかった場合の聞き返しなど、子どもたちの声を拾い上げたものを掲示物に整理し、目にすることができるよう準備したい。安心して話すことができる上で、対話力の向上を図る。

(エ) 振り返りの充実

単元を通して、振り返りの活動を行っていく。自己の理解したことを蓄積していくことにもなるが、話し合いに対して必要なことを自己で感じ取っていくことにつながっていくと思う。単元の終わりでは、自分が話し合いでできるようになったことなどを言語化することで自己認知力を高められると考える。

8 本時（全8時間中の第6時）

（1）本時のねらい

相談に関心をもち、自分の考えを話すことで話をつなげることができる。

（2）学習活動過程

	◎本時の活動 ○指導上の留意点 ☆国語科における評価	働かせる力	●本研究における指導の手だての具体 ★本研究における評価
導入 8分	◎前時を振り返り、本時のめあてを知る。 話し合って考えを出し合おう。 ○前時に確認した話し合いの手順を改めて映像を視聴し、確認する。また、話し合いをするときのポイントを板書に掲示し、積極的に話し合いが行えるよう準備する。	(自己認知力)	(イ) 話し合いの流れや話し合いのポイントを掲示し、話し合いに意欲的に取り組めるようにする。
展開 25分	◎話し合いを行い、考えを出し合う。 ○同じ相談内容グループ（4人）で行い、話し合いの仕方を守るように呼び掛ける。 ○話し合いをグループ内の1番の席に座った友達から順に話し合いを行う。 ○1番の友達が相談することを終えたら、相談にのってくれた友達に対して、どんなところがよかったか、うれしかったかを伝える。 ○グループの中で順番に相談を行っていく。 ○早く終わった生活班は、生活班の中でよかったと思うことを話し合うようにする。一人一人のよいところを見つけるように声を掛ける。 ☆自分の考えを話すことで話をつなげることができた。【発表・観察】 ◎本時の話し合いの振り返りをする。 ○ワークシートに自分の決定した質問を書き、話し合いのよかったところを具体的に書く。	相談される側 対話力 友達の相談に主体的に関わり、内容に沿って話している。 相談する側 友達の返答を受け止めて自己の考えを深める。	(ウ) 机間支援（指導）時に話し合いのポイントを活かしているかの視点で声掛けをする。 (エ) 話し合いがうまくいった理由はどこにあったかを全体に投げかける。
まとめ 7分	◎振り返りを全体で共有する。 ○ワークシートに書いた振り返りから話し合いの時のポイントに追加する。 ◎次時の学習の見通しをもつ。 ○話し合いの話題を代えて実施することを確認する。	★自分の考えをつなげることのよさに気づき、考えをまとめている。	